

脱炭素への歩み 2024

持続可能な未来に向けた年次報告



2025 年 10 月 17 日



株式会社グリーンエコエナジー・アセットマネジメント

1. ご挨拶

地球規模で気候変動への対応が喫緊の課題となる中、当社は、創業以来、再生可能エネルギー発電所の販売・仲介・各種デューデリジェンス事業を通じて、温室効果ガス（GHG）排出量の削減に貢献してまいりました。

本年度からは、GHG 排出量の算定ツールを導入し、自社における排出量削減の取り組みを本格的に開始しております。さらに、2030 年度を目標とする短期的な削減目標を設定し、SBT（Science Based Targets）認証を取得いたしました。

本報告書では、当社の脱炭素に関する主な取り組みとその成果、そして今後の方針についてご報告いたします。今後も、持続可能な社会の実現に向けて皆様とともに歩みを進めるとともに、透明性の高い情報開示を通じて、社会との対話を一層深めてまいります。

株式会社グリーンエコエナジー・アセットマネジメント
代表取締役 山本 健一郎

2. 今年度の主な取り組みと成果

(1)風力発電施設の導入

北海道根室市において、2027 年に風力発電施設(2MW)を稼働させる準備を進めています。

(2)木質ペレット製造設備の導入

北海道上ノ国町において、木質ペレット製造設備を導入致しました。近隣の森林から発生する未利用材を原料として木質ペレットを製造する予定です。地域で化石燃料に代わる燃料として木質ペレットが活用されるような仕組みづくりを進める計画です。



写真-1 木質ペレット工場・製造設備

(3)排出量の算定ツールの導入・排出量の把握

e-dash 株式会社が提供する GHG プロトコルに基づく排出量の算定ツールを利用して、毎月の GHG 排出量(Scope1・Scope2※)を把握しています。

2024 年度(2024 年 10 ～ 2025 年 9 月)の年間排出量は 3.17 t-CO₂ で、2023 年度(2023 年 10 ～ 2024 年 9 月)と比べて約 22% 増加しました(2023 年度の排出量 : 2.60t-CO₂)。これは、2024 年度冬季の東京の気温が前年度比べて低かったために、暖房器具の利用時間が増えたことが原因と考えられます。

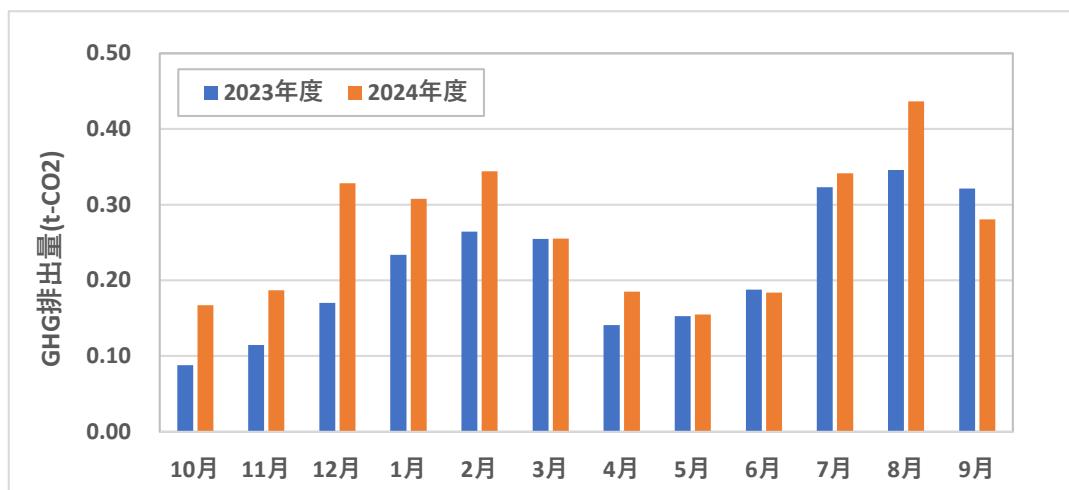


図-1 全社 GHG 排出量(Scope1・Scope2)

※GHG 排出量について

Scope1：事業者による直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)。当社の排出量はゼロ。

Scope2：他社から供給された電気、熱、蒸気の仕様に伴う間接排出

(4)グリーン電力証書の活用により当社の排出量は実質ゼロ

日本自然エネルギー株式会社が発行する「グリーン電力証書」を活用して、2023～2024 年度の消費電力(約 13,000kWh)を再生可能エネルギー由来と致しました。この結果、当社の GHG 排出量は実質ゼロとなりました。

(5)SBT 認証

当社は、パリ協定の目標「世界の気温上昇を産業革命前より 2°C を十分に下回る水準に抑え、さらに 1.5°C に抑える」と整合した温室効果ガス (GHG) 削減の目標設定と実行を企業に促す国際的な枠組み「Science Based Targets initiative (SBTi)」より、図-2 に示す短期目標の妥当性が認められ、SBT 認定（中小企業版）を受けました。

短期目標(2030 年)

Scope 1 排出量：0 t-CO₂ を維持する。

Scope 2 排出量：基準年排出量を 100% 削減する。

Scope 3 排出量：排出量を把握し削減に努める。

基準年排出量(2023 年度)

Scope 1 排出量：0 t-CO₂

Scope 2 排出量：2.60 t-CO₂ (グリーン電力証書により実質排出量 0 t-CO₂)

図-2 当社の短期目標(SBT)

3. 今後の方針

(1)再生可能エネルギーの普及

北海道根室市における大型風力発電の導入(2MW)、北海道上ノ国町におけるペレットの製造・熱源利用を進めます。また、再生可能エネルギーの普及にあたって地域の電力システムの安定に欠かせない蓄電施設の開発を行ってまいります。

(2)SBT 達成に向けた取り組み

SBT 達成に向けて、オフィスの省エネ化を進め自社の GHG 排出量(Scope1・Scope2)を削減します。排出分については、グリーン電力証書の活用により実質ゼロとします。また、Scope3 排出量(当社の事業活動に関連する他社の排出)の把握につとめます。

以上